

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

民間企業と連携した駐輪場シェアサービスの運用

2 取組期間

平成 30 年 2 月 15 日サービス開始（継続中）

3 取組概要

商業施設の多い駅周辺で増加する短時間の不正駐輪の対策として、スマートフォン等を利用して、空いている土地・スペースを誰でも貸し借りできる駐輪場シェアサービスを提供する民間企業と連携した駐輪対策に取り組み、自転車利用者が目的地により近い小規模駐輪場を分散させて提供することで、時間と費用をかけず効果的に放置自転車対策および自転車利用者の利便性向上を図るものです。

4 背景・目的

地形が概ね平坦で、駅から市域いずれの場所までも比較的短い距離にあることなどから、多くの市民が自転車を利用しています。これまで、駐輪場整備や放置自転車の警告・撤去作業を中心とした取り組みを行ってきたことから、通勤通学での鉄道利用者の多くは駐輪場を利用するようになり、放置自転車撤去台数は毎年減少しています。しかし、近年では商業施設が集中する駅周辺のエリアで、買い物客等の短時間の不正駐輪が増加しており、「短時間だから」「目的地の近くに駐輪場がないから」などの理由で道路上や民地内のわずかなスペースに自転車を放置するケースが増加傾向にあり、対策が急務となっていました。

5 取組の具体的内容

■放置自転車対策の視点

長時間駐輪（通勤通学）⇒ 鉄道駅近くの駐輪場整備

通勤通学者については、従来からの駐輪場整備、民間駐輪場整備に対する補助金交付を進めたことにより、一定の効果を上げている。

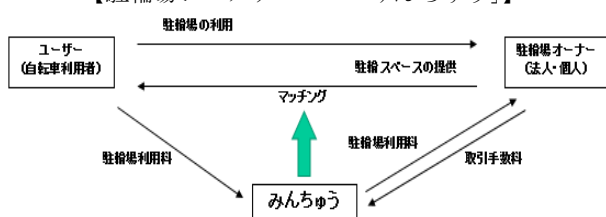
短時間駐輪（買い物） ⇒ 商店等の近くに分散した駐輪場整備

買い物客は、駐輪時間は短く、目的の商店等の直近に駐輪する傾向があり、一カ所に大きな駐輪場を整備しても利用はされない。

■新たな手法による駐輪スペースの確保

駅周辺の道路に面する個人の空いている土地や商業施設のデッドスペース等を駐輪場として貸したいオーナーと、駐輪場を探しているユーザーが、スマートフォンアプリを通して貸し借りできる駐輪場シェアサービス「みんなちゅう」を活用し、駅周辺のわずかな土地や店舗の空きスペースを駐輪場とすることで、用地費や建設費を一切かけず **短時間駐輪の対策** で必要とされる分散型小規模駐輪場の整備を可能としました。

【駐輪場シェアサービス「みんなちゅう」】



【実施例】



店舗前の空きスペース



駐輪場とした活用例

【「みんなちゅう」スマートフォン利用方法】

スマートフォンアプリ（Android版・iOS版）から、貸し出し利用予約の全てを行うことができます。



（トップ画面）

（駐輪場選択）

（自転車・支払等登録）

【駐輪場登録台数】 H30.5.11 現在

区 域	箇所数	駐輪可能台数
大和駅周辺エリア	8箇所	90台
中央林間駅周辺エリア	7箇所	124台
合 計	15箇所	214台

■実施区域

市内の鉄道駅8駅の中で、放置自転車が特に多い傾向にあり、商業施設等が集中する大和駅・中央林間駅周辺を実施区域とします。（自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律 第五条）

■官民連携によるサービスの提供

大和市とサービスを提供する企業が「自転車駐輪場施設の設置及び運営に関する協定」を締結し、駐輪場の運営を企業がを行い、管理面で官民が連携してサービスを提供しています。駅周辺の放置自転車の警告・撤去・保管を行っている市交通安全巡視員を活用することで、駐輪場サービスに対する市民の信頼度を上げ、駐輪場拡大と利用率向上を図ります。

駐輪場の運営 — アイキューソフィア(株)

駐輪場の管理 — アイキューソフィア(株)・・・①駐輪場の区画線、看板等の設置・補修
②放置自転車の処分
③トラブル対応

大和市道路安全対策課・・・①駐輪場内の不正駐輪に対する警告
(交通安全巡視員の活用) ②駐輪場内の放置自転車の撤去、保管

駐輪場の拡大 — 大和市は商店会等への駐輪対策協力依頼で協力

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・鉄道利用の通勤通学による長時間駐輪に対応した駅近くでの大型駐輪場の整備ではなく、買い物客等による短時間駐輪に対応するための小規模な駐輪場を駅周辺に分散させて設置することを考慮しました。
- ・駐輪場整備のための多大な用地費や建設費を一切必要とせず、早急な駐輪場設置が可能となりました。
- ・駐輪場管理面で市交通安全巡視員を活用し、日常業務の放置自転車対策業務の中で巡視等を行うことで、企業と連携する駐輪場の信頼度を上げ、利用者拡大を図りました。
- ・スマートフォン等で簡単に駐輪場の貸し借りができる国内唯一の駐輪場シェアサービスを提供する民間企業と連携した放置自転車対策の取り組みは日本初の試みです。

7 取組の効果・費用

- ・放置自転車に対する警告・撤去作業を強化するためには、駐輪場確保は不可欠であり、駐輪場設置が迅速に実施でき費用を必要としないという点で効果は大きいものです。
- ・商店会での買い物で駐車クーポンを発行するなど、取り組み次第では、今後、商店街活性化に繋がっていくことも見込まれます。
- ・効果額
駐輪場整備費用（初期投資 214 台分）、維持管理費用（ランニングコスト 214 台分）
平置駐輪場整備費・・・50,000 円/台×214 台＝10,700,000 円（用地費含まず。）
駐輪機器保守管理・・・25,700 円/台×214 台＝ 5,499,800 円（1 年間）
注. H30.5.11 時点の駐輪場登録台数で効果額算出。台数増加に伴い効果額は増加。
- ・取組に要した費用は、ゼロ。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・民間企業による駐輪場運営が継続することが、取り組みの持続に繋がることから、駐輪場拡大とともに安定した利用者の確保が必要となります。サービス開始前の駐輪場確保のための営業活動に協力するとともに、開始後の十分な広報活動が必要です。
- ・放置自転車に対する警告や撤去作業を強化することで、自転車利用者の意識が変わり、駐輪場利用率の向上が図られます。駐輪場シェアサービス導入とともに、放置自転車対策の強化も必要となります。

9 今後の予定・構想

- ・現在、市営駐輪場は市内全体で140台を運営・管理していますが、駅周辺の開発計画等により閉鎖が予想されています。将来的に駐輪場シェアサービスを継続することで、市営駐輪場ゼロでも放置自転車ゼロを目指します。

10 他団体へのアドバイス

- ・民間企業との連携によるサービスであるため、このサービスが全国に広まることが取り組みの継続に繋がりますので、多くの地域で取り組んでいただきたいと思います。ただし、放置自転車対策の現状について考えてみるのが大切です。

11 取組について記載したホームページ

- ・<http://www.city.yamato.lg.jp/web/d-seibi/mintyu.html>